

次世代に引き継ぎたい北海道の宝物

北海道遺産



旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群



北海道遺産
Hokkaido Heritage

登別温泉地帯

北限のブナ林

根室台地の樺皮採集跡

天塩川



森林鉄道蒸気機関車(国色灯籠)

日本郵便

日本郵便

日本郵便



雨竜沼澤



札幌灯台祭(道庁本庁舎裏山)

80

NIPPON

NIPPON

80

NIPPON

80



ニカラカニ合正製粉所



札幌商標酒造(旧本町製粉所)



旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群



ヒラカシ館

NIPPON

80

NIPPON

80

NIPPON

80

NIPPON

80



空知製紙工場



南十勝沼田の縄文文化通財館(中島土偶)

NIPPON

80

NIPPON

80

NIPPON

80



ジンギスカン

- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

© 日本郵便株式会社





北海道遺産とは

次の世代に引き継ぎたい北海道の大切な宝物です。豊かな自然はもちろんです。北海道に生きてきた人々の歴史や文化、生活、産業など有形・無形の財産の中から、道民参加によって選ばれました。

平成13年10月に第1回選定分25件が、平成16年10月に第2回選定分27件が決まり、52件の北海道遺産が誕生しています。

北海道遺産

次世代に引き継ぎたい北海道の宝物

旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群

上士幌町



昭和初期に十勝内陸の産業開発を目指して建設された第1級の鉄道遺産。市民と企業が一体となった運動の結果、34橋梁が保存された。中でもタラシバツのアーチ橋は、膠平湖の水柱によりその姿を変える「幻の橋」として近年人気が高まっている。地元の高い手さとの伝統的な芸術は産業遺産の保全・活用モデルとして全国的に知られている。

登別温泉地獄谷

登別市



地獄谷は北海道を代表する温泉地・登別温泉最大の湯場。直径450mの谷底には大地獄を中心に15の地獄があり、毎分3,000ℓが湧き出している。登別温泉は「温泉のデパート」と形容され、11の泉質が湧出しており、これは世界的にも珍しい。地獄谷の周辺には蒸気温度が40～50度になる大湯沼、洞きから白煙が立ち上り、高山植物の名所としても知られる日和山、登別原始林などが広がる。

北限のブナ林

里塚町



ブナは温帯を代表する樹種で、北海道では釧路半島だけに分布する。里塚内はその北限で、太平洋側の長万部と日本海側の森部を結ぶ里塚内低地帯が境界線。里塚町内では、自然の恵みを生かすブナセンターや自然学校の開設など、ブナ林が貴重な自然生物多様性を活かした取り組みが進められている。また、里塚の七島町には里塚に在化したドイツ人ガルトナーの植林したブナ人工林が復る。

根釧台地の格子状防風林

中標津町など



中標津町、標津町、標津町、標津町にまたがる格子状防風林は、スペースシャトルからも撮影されたように、そのスケールにおいても地球規模的な。北海道ならではの雄大なもの。幅180m、総延長648kmの林帯は、防風効果だけでなく野牛や鹿のすみかや移動の経路としての機能も果たしている。開拓時代の開拓地を示す歴史の遺産も持つ。

天塩川

滝川市



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武吉が「天塩川内陸調査の途上で「北海(知伊)道」を命名したとされる。川の名前の由来となったアイヌ語で「果」の意味が最も多く存在し、河口までの約160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー遊地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポイントから天塩川を下っていく。

森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」

函館市



「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産1トン機関車。昭和3年、大森町一武町森林鉄道に配置され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に使われてきたが昭和36年に廃止。地元で長い歴史を築いた。1995年、北見森林局から巨摩市町に譲渡され、町は「森林公園」の一角を建設、機関車を走らせた。数機保存は道内では唯一のもの。

雨竜沼原

雨竜町



増毛山地の標高850mにあり、北海道の山地湖沼の中でもっとも大きな高沼湖。大小の沼沢の地帯(わづら)が百数十あり、独特の景観を呈する。湿原植物も豊富で、昭和39年に道指定天然記念物。平成2年に国営増毛・増毛・増毛公園特別保護地区に指定された。「雨竜沼原を愛する会」による活動は、沼原を未来に伝える人知と愛しさを高めてくれる。

延神大神宮渡御祭と江差追分

江差町



延神大神宮渡御祭の起源は約270年前にさかのぼる。その年のニシンの豊漁に感謝を込めて行われたお祭りで、現在も毎年8月9日～11日に3日間は祭り一色となる。13舟の山車(やまこ)が5階の獅子の舞へによって町内を回り歩く。また江差追分は中山道の舟子衆をテーマに、北国の統一旗上にもまれながら多くの先達に会い舞がけである。日本国内だけでなく、海外にも多くの愛好者を持つ。はるか昔の江差のニシン歴史を現代に伝える。

ニッカウスキー余市蒸溜所

余市町



理想のウイスキーづくりをもとめた竹鶴政孝は、選んだ気候と夏でもあまり気温の上らない気候に加え、近くには良質な水に恵まれた余市をその産地として選んだ。ニッカウスキー余市蒸溜所は昭和11年、ポットスティルに火が点けられてからウイスキーの製造が開始されて以来、当時と変わらない製法でウイスキーの蒸餾、貯蔵を行っている。

札幌苗穂地区の工場・記念館群

札幌市



札幌市の苗穂川以南は、昔平川の状況水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も醸造業をはじめ、さまざまな工場や倉庫が立ち並び、下町的な雰囲気を持っている。苗穂地区には北の道産物技術館、サッポロビール博物館、道庁農業史料館(内容も充実)、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成する。

ピアソン記念館

札幌市



アメリカ人宣教師Pピアソン夫妻の私邸として1833年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着点となった地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付(現在の北見)。晩年遺稿や伝説話など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江流の建築家として知られているW.M.フォーリス。

江別のれんが

江別町



岡田佐は内務省建築資材に人材を供給し、道内8地区17の工場で造られたれんがによって、北有線列車れんが庁舎をはじめ多くの名建築が生まれた。大正以降、全道一の磚土産地である江別の野幌炭坑へれんが製造の中心が移り、現在も3つの工場が稼働している。市内には小学校やセイロ、民家など400棟以上のれんが建築物が美しい姿で残存している。

内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群(中壘土甕)

網走市、伊達市など



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函根市の高野部地区には現在91ヶ所の遺跡が確認されている。これまでに出土した遺物は4000点を超過しており、香保内野遺跡で発掘された「中壘土甕」は北海道初の国産品と推定されている。伊達市の志賀倉村塚は、縄文早期(7000年前)～中期(6000～4000年前)の墓跡で、住居や倉庫内にほとんど無い「水曜の祭壇」が発見されている。

ジンギスカン

北海道各地



ジンギスカン料理の発祥については諸説があるが、北海道でもっとも広く、かつ典型的に発達した。大抵にも煎焼はみられるが、味付けなど羊肉を美味しく食べる工夫が凝らされ、新しい料理として北海道で確立したといえる。観光の魅力の一つであるとともに、夏場などでも定番であるジンギスカンは、餅を焼いて人と人をつなげる役割も果たしている。